

令和元年度  
「自己点検・自己評価」報告書

令和2年5月29日作成

学校法人 一川学園  
専門学校 越生自動車大学校

## はじめに

本校は昭和37年創立以来、50年以上に渡り工業系技術者教育を通じて多くの優秀な技術者を育成してまいりました。現在、一級自動車整備科・自動車整備科（二級課程）・情報システム科を設置し、本校の建学の精神である「行うことによって学ぶ」に則り、これまでに6,500名を超える卒業生を自動車業界やIT業界送り出しています。

これからも本校は、社会から必要とされる高度な専門知識・専門技術と豊かな人間性を備えた技術者の育成に全力を尽くしてまいります。

### 1. 学校の教育目標

社会から必要とされる「優秀な技術者を育成する」ことを教育目標とする。  
次のような技術者を育成する。

- (1) 高度な専門知識・専門技術を身に付けた技術者
- (2) 各種資格取得と豊かな人間性を身に付けた技術者
- (3) たゆまぬ努力で技術革新に対応できる技術者

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

超少子高齢化社会を迎え専門学校に求められる役割は、次のように多様化している。

- 1 専門教育の質の向上
- 2 地域のニーズを踏まえたリカレント教育
- 3 留学生への積極的な門戸開放

その中で、本校は2年後に創立60周年を迎えることとなる。この60年間積み重ねて得た経験値やノウハウを基に、今後へ向けての方向性を示すべく、学園の中長期計画を立案している。そのテーマは、「学生と教職員が誇りに思える学校創り」である。その第一歩として、教育の特色である「少人数グループ制教育」の本質とメリットを見つめ直すことからスタートしたいと考えている。教育内容を向上させ、時代の変化に柔軟に対応したものとすることで安定した学生募集に繋げていくことを計画の柱とする。そして、「OAC PRIDE」をスローガンに、大きい学校でなく、地域から必要とされるオンリーワンの強い学校を目指していきたい。

#### (1) 2019年重点目標

- ① 募集目標学生の確保を目指す
- ② 国家試験100%合格を目指す
- ③ 就職率100%を目指す
- ④ 全員進級、全員卒業

#### (2) 2019年度重点方針

### 1) 重点方針1 教育内容のレベルアップ・質の担保

本校の建学の精神「行うことによって学ぶ」に基き、学生たちが満足する授業を展開していく。誠実で豊かな人間性を備えて社会から必要とされる優秀な技術者を育成する。

また、教育の質の担保として高等教育の無償化対象校基準をクリアし、職業実践専門課程への認可を目指した教育展開を行っていく。

※ 今年度の具体的な取り組み

①教育内容の充実と教育設備・施設の充実を図る教育計画の立案と実施

②高等教育無償化基準、職業実践専門課程認可基準を満たす教育展開

③機関要件を整える

① シラバスの作成と運用

② カリキュラム見直し

③ 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の設置

④企業後援会との連携強化

・企業インターンシップの継続

・一級課程2年生の校外実習教科

・外部講師による出張授業等の実施

・企業との意見交換の実施

・学生募集活動・クラブ活動への支援

### 2) 重点方針2 「誠実」「挑戦」「感謝」を柱とした豊かな人間性教育の徹底

社会人として必要な、挨拶・身だしなみ・礼儀・マナー等のコミュニケーション能力の向上を図り、合わせて「誠実」「挑戦」「感謝」など人間として必要とする考えを芽生えさせる学生指導を展開する。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

企業が求める自動車整備専門学校の卒業生に対するニーズも時代と共に変化している。常に企業側のニーズを的確に把握して専門教育を実施していかなければならない。

② 今後の改善方策

今後は、毎年就職先企業との連携を強化し、様々なことに対して意見交換などを実施して行く。

③ 記事項

本校では、令和2年2月27日（木）企業後援会入会企業20社との意見交換会を実施した。今年度のテーマは、「留学生の受け入れと採用について」とし、これまでの取り組みを振り返り、今後実施していきたい取り組みについて意見交換をした。以下企業からの主な意見

- ・2020年4月から留学生の受け入れ開始する企業は、5社とのこと。
- ・言葉やビザ、国際免許などは、採用前に注意が必要である。
- ・技能実習生としての受け入れは以前からしているので、良い人材であれば積極的に採用する。
- ・専門学校では、留学生だけのクラス編成は避けて欲しい。日本語が身につかない。
- ・採用試験は日本人と同じように実施している。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1
----------------------------	---	---	---	---

① 課題

教育活動に関する情報公開に向け、シラバス、カリキュラム、就職実績、資格取得状況などを開示する準備が整った。今年度中にも開示できるものは順次開示していく。

② 今後の改善方策

教育活動に関する情報を解り易くまとめ、2019年度より公開した。高等教育無償化制度導入に伴い、機関対象校となる基準を満たしていく。

また、職業実践専門課程への認可に向け、2018年度において学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置した。

情報システム等による業務の効率化を図るため、平成29年度に学生管理システムを導入した。これにより、保護者の方が成績・出席状況などをリアルタイムで検索できるようになった。

③ 記事項

2020年度において人事・給与に関する規定の見直し、新賃金制度を導入した。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

### ① 課題

2級課程では、企業との連携によるカリキュラムの作成や、産学連携による実技・実習を多く取り入れることが必要である。1級課程においては、1級整備士を取得している教員を増やし、教員の質の向上が課題である。

入学生の基礎学力不足が専門教育を展開して行く上で大きな課題となっている。

### ② 今後の改善方策

2級課程における企業との連携授業は、職業実践専門課程による企業からの意見を取り入れ実践する。また、教員の新技术等の知識・技術修得のため企業の方に研修を依頼する。

1級課程の教員の質の向上のため、各種資格取得を支援する。

基礎学力不足の学生については、1年生前期の毎週1回基礎学力向上対策授業を実施しているが、なかなか全ての学生を一定水準まで引き上げることは難しい状況である。今後1年後期も実施に向け検討する。

### ③ 記事項

- ・企業と連携した授業 関東マツダ「春のマツダセミナー」自動車整備科1年生全員  
東日本三菱自動車販売（株）「EV自動車」技術講習会  
埼玉ダイハツ「スマートアシスト」先進技術講習会
- ・企業研修 SUBARUメカニック研修
- ・工場見学 2級課程 日野自動車 古河工場見学  
1級課程 レクサス店、VW店
- ・企業と連携したインターンシップ（夏季企業研修）  
一級自動車整備科1年生全員、自動車整備科1年生全員対象に実施した。

27年度から情報システム科1年生もインターンシップを実施した。

・教員研修

いすゞ自動車教員研修 日野自動車教員研修 株式会社マツダ教員研修参加

・平成26年度からの授業アンケートを実施（学生からの授業に対する評価）

・教員の授業公開の実施

本校では教員の解りやすい授業と資質向上のため、年2回授業公開を実施している。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

2級課程の卒業生に対し社会的な評価については、全員の把握はできていない。また、退学者の傾向としては、学力不足及び出席不良が多く、今後早急な対応を考える必要がある。

就職率は、ここ数年整備士不足から就職率100%で推移している。内定時期が1年次2月・3月頃に前倒しになり、学生の勉学意識が低下している。

国家試験合格率は、2級課程の2種目（ガソリン・ジーゼル）100%合格できた。今後も100%合格が維持できるよう努める。1級課程においては、合格率を向上させることが出来ず、不合格者の原因を検証し早急な対策を講じる必要がある。不合格者の主な原因は、勉強不足も去ることながら、問題が過去問と違った形式で出題された場合、応用力が効かず苦戦している

令和元年度実績 2級課程 100.0% 1級課程 33.3%（令和2年3月22日実施）

退学者は、一級自動車整備科1名、自動車整備科1名、情報システム科0名である。

### ③ 後の改善方策

2級課程の卒業生に対しては、アンケート形式で現状の把握をする必要がある。退学者の対応としては、早期の段階で学力不足の学生に対し基礎学力の勉強をする時間を作り、補習を行う必要がある。また、出席不良の学生には、面談と保護者との連携により早期の段階で把握し、注意を促す必要がある。国家試験対策としては、一人ひとりの学生の能力・意欲に応じたきめ細かい指導に徹する。また、各人の過去問題成績等を長期に渡りデータ化し、不得意科目を洗い出し、個人別国家試験対策を実施して行く。合わせて、国家試験対策計画を7月末までに作成し、すべての教員がその内容を共有し100%合格へ導く。

### ③記事項

卒業生の離職を一人でも防ぐため、アフターフォローを強化する。退学者の対応については、少人数クラス及び少人数グループにより、担任及び実習担当者との協議による早期の手当をする。

#### (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	②	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1



### ① 課題

生活困窮家庭への学費減免等の援助について検討を要する。2020年度より高等教育無償化がスタートするが、本校も機関対象校になることができた。

### ② 今後の改善方策

学費減免制度創設に向け準備作業に入る。就職先企業が独自の奨学金制度を創設し、人材を確保したい動きが活発である。就職活動と合わせ学生達に周知し、該当する学生には企業奨学金利用を促していく。保護者との連携強化としては、学校関係者評価委員に在学生の保護者に就任していただき、保護者からの生の声を教育活動に反映していきたい。

### ③特記事項

年2回保護者の方に授業公開を実施し、同時に懇談会を開催している。  
奨学金利用学生の学費納付は、年3期の納付でなく月単位の納付制度を導入している。

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4    ③    2    1
・学内外の学習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4    ③    2    1
・防災に対する体制は整備されているか	4    ③    2    1

### ① 課題

自動車整備科の実習用教材について、本校では毎年新規購入し設備の充実に取り組んでいるが、高額になる教材もあるため単年度での整備には限界がある。

2級課程の海外研修では、限られた予算内での米国研修となるが、近年燃油サーチャージが高騰しているため今後検討を必要とされる。

### ② 今後の改善方策

本校では、2022年に学園創立60周年を迎える。そのための、記念事業として教育環境の全面的な見直しを計画している。2020年度より、管理棟・学科棟の新築工事が着工された。2021年3月完成予定である。また、2021年度には、実習棟も建設予定であり、完成後の2022年度には教育環境が一新される。

2級課程の海外研修では、限られた予算内であるので今後研修先の変更も検討する。

③ 特記事項

防災体制 年2回避難消火訓練実施している。(地震発生による火災を想定した避難訓練)  
 海外研修 米国ロサンゼルスにて現地の整備学校見学

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4    ③    2    1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4    ③    2    1
・学納金は妥当なものとなっているか	④    3    2    1

① 課題

イ 3年連続入学者の減少に歯止めがかけられた。  
 ロ 本校の近隣高等学校との信頼関係構築を強固なものとする。  
 ハ 埼玉県北地区・秩父地区からの入学生を増加させる。  
 ニ 県外の高等学校に対する募集対策  
 ホ 留学生の入学者ゼロ

② 後の改善方策

入学者減少は、本校の姉妹校からの減少と外部校からの減少の両面からという、厳しい状況である。よって、まず姉妹校から安定的な入学者確保を目指し、合わせて本校近隣校からの入学者増とする募集活動を展開していく。今年度は、以下のような募集戦略を実施する。  
 イ 入学実績高校へ学生近況報告書持参して訪問する。  
 ロ 資格取得実績・就職実績のタイムリーな報告を実施する。  
 ハ 本校の教育特色をしっかりと打ち出すツールを作成する。  
 ニ 自動車整備士の魅力を高校生にアピールするため、今年度は自力で特色ある「オープンキャンパス」を夏休み期間中に実施する計画である。

③ 記事事項

平成25年度から28年度までの4年間は、募集活動は順調に推移し、僅かであるが入学生は増加している。しかし、平成29年度、30年度、令和元年度入学生は3年連続して減少に転じてしまった。毎年募集活動は先が見えず厳しい環境である。最終的には、教育内容をしっかりと構築し、入学生全員が資格取得と就職と言う目的を達成出来るよう、教職員が一丸となって努力することが大切であると考え。

2020年度の入学者実績

一級自動車整備科 3名    自動車整備科 28名    情報システム科 1名    合計 32名

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

① 課題

財務情報の公開に向け、体制を整備する。

② 今後の改善方策

高等教育の無償化対象校としての機関要件、職業実践専門課程の認可の認定要件でもある財務状況公開した。

③ 記事項

2022年度に本校は創立60周年を迎える。現在記念事業の計画案を策定中であるが、校舎等大きな設備投資も含まれるため、そのための財源確保と学園存続の損益計画を作成している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 (3) 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 (3) 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 (3) 2 1

①課題

学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の設置と両委員会を開催する。  
平成30年度自己点検・自己評価を公開した。

② 今後の改善方策

平成30年度から学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し両委員会を開催した。  
令和元年度学校関係者評価委員会 令和元年7月26日（金）、12月24日（火）開催  
令和元年度教育課程編成委員会 令和元年7月26日（金）、12月24日（火）開催  
合わせて、両委員会の議事録の情報公開も実施した。

③ 特記事項

令和2年度の学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の開催予定  
第1回 令和2年 7月22日（木） 両委員会開催  
第2回 令和2年 12月22日（木） 両委員会開催

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

学生のボランティア活動は、授業時間の関係でなかなか実施できていない。  
今後地域に対する貢献をどのように取り組んでいくのか検討を要する。

② 今後の改善方策

地域貢献・学生ボランティア活動・公開講座を積極的に取り組む。  
2019年度より、「OAC夏フェス」を開催し、地域の子ども達と一緒に本校を理解してもらいイベント開催した。

③ 特記事項

越生町立越生中学校インターンシップ受け入れ（平成23年度から8年連続で実施）  
地域貢献活動・・・越生自大地域クリーン活動（平成24年度から継続実施）

越生町産業祭・越生町こどもフェスティバルへの協賛（平成27年度より実施）  
越生町商工会・・・パソコン教室、フォークリフト免許取得講座開催（平成25年度から継続実施）  
越生町「子ども大学」・・・平成29年8月21日 自動車講座開催（自動車講座担当）  
テーマ・・・電気自動車とハイブリッド自動車  
平成30年8月21日 「クルマはなぜ動くのか？」開催

#### 4. 重点目標達成についての評価及び総合的な評価結果

本校は、平成24年に創立50周年の節目を迎えた。この創立50周年を期に「新生越生自動車対応し社会から必要される専門学校として運営してきた。しかし、自動車整備学校を取り巻く社会環境は依然として厳しい状況である。入学者数もここ3年連続して減少しており、何とかこの閉塞感漂う学生募集に明るい兆しを見出していきたい。

本校は、2022年度に創立60周年となる。この大きな節目を契機として学校存続基盤の整備を実施していき、「Next 60th Anniversary」に向かい、越生自動車大学の永遠の成長と発展を図るものとする。

##### (1) 令和元年度越生自動車大学校運営計画の骨子について

###### ①基本的な専門知識・専門技術の修得

イ 個人指導の充実・・・教員1名で15名の学生を指導する（実習授業）

ロ 教材車両・単体教材は3人で1台を確保する

二 毎日の授業を大切にする（毎日実習授業を実施）

自動車整備科2年間の総授業時間 専門科目 2,032時間 一般教養 160時間

合計 2,192時間となっている。

###### ②豊かな人間性教育の徹底

イ 挨拶の励行・・・立ち止まって挨拶を校内で実践

ロ 「身だしなみ」を整える・・・スーツデーの実施

ハ 越生自大クリーンデーの新設・・・地域貢献活動

###### ③学生募集計画の立案

イ 募集目標の設定

ロ 具体的な募集活動

・高校生とダイレクトに接触できる進学説明会への参加

・体験入学・見学会のリニューアル

・効果的高等学校訪問活動の実施

###### ④教育計画の見直しと新規立案

年間授業計画・国家試験対策計画・就職計画・人間性教育計画

###### ⑤教育設備・施設充実計画

教育機器・教材車両・実習教室改修計画

###### ⑥本校企業後援会組織との連携強化

・企業後援会奨学生の採用

・奨学金の給付

- ・教育機器購入援助
- ・自動車整備科1年次生の企業研修（インターンシップ）実施
- ・校内技術コンクール開催
- ・企業の出前授業の開催
- ・教育活動に対する意見交換会の開催
- ・学生募集活動における企業連携

## （2）令和元年度重点目標達成について評価

### ①国家試験100%を目指す

令和元年度一級自動車整備科卒業生3名の合格率は、合格者1名の厳しい結果であった。昨年度の合格率よりアップさせることはできたが、今年度は全国平均の合格率も大幅に良くなっている背景を見ると厳しい結果であり、抜本的に改革していかなければ合格率を向上させることはできない。学生の試験に対するモチベーションも同時に高めていく指導が必要となる。

自動車整備科（2級課程）においては、卒業生25名で全員が2種目（ガソリン・ジーゼル）合格となった。本校としては、久しぶりの2種目完全合格であり、2年後に創立60周年を迎えることを考えると大きな弾みになった。この実績に奢ることなく、安定的に100%合格を継続出来るよう教育の質を担保していかなければならない。情報システム科については、J検（情報処理活用能力検定）3級は、合格率100.0%となり徐々に全員取得できた。但、情報システム科の最終目標であるITパスポート資格取得については、受験レベルまで学生達を導くことが出来ず、今後の課題事項となっている。尚、残念であるが、情報システム科は次年度以降募集停止にし、2022年度廃止の予定である。

### ②就職率100%を目指す

一級自動車整備科3名については、全員が第一希望の企業に就職することが出来た。総じて1級課程の学生は早期に就職が決まる傾向あり、企業側の求人意欲の高さを感じている。

自動車整備科の就職希望者22名は全員就職できた。また、1級課程進学者は2名となった。自動車整備科の学生全員が、希望の進路を決定することが出来た。

情報システム科の卒業生2名は、1名進学、1名自家就職となった。

### ③募集目標学生の確保

創立50周年から学生募集活動を見直し、様々な広報手段を用いて教職員一丸となった取り組みの成果で、自動車整備科（2級課程）では、安定的に学生数を確保できていたが、平成29年度から減少に転じてしまった。若者のクルマ離れなど募集環境は厳しい状況であるが、来年度は何としても入学者を増加させていきたい。

※学科別入学者数（平成29年度～令和2年度）

・自動車整備科

29年度33名 → 30年度28名 → 元年度25名 → 2年度28名

・一級自動車整備科

29年度8名 → 30年度4名 → 元年度5名 → 2年度3名

・情報システム科

29年度6名 → 30年度4名 → 元年度1名 → 2年度1名

情報システム科の2年度入学生は、1名である。このことを踏まえ、次年度から募集停止とし、2022年度において廃止する予定です。

上記のように推移しているが、令和2年度の入学生は、3年連続減少に歯止めをかけられた。合計32名の入学者となり、学生総数は64名となった。

(3) 総合的な評価結果

創立50周年(平成24年度)を機に「新生越生自動車大学校」として生まれ変わり、教育内容や学生募集活動を抜本的に見直し地域社会から必要とされる専門学校となるべく教職員一丸になり努力をして来た。自動車整備科の入学生は、平成28年度までは目標としていた人数を安定的に確保することが出来た。しかし、ここ3年連続で自動車整備科の入学者が減少した。自動車整備士を目指す高校生が減少している等、本校を取り巻く環境は厳しい状況であるが、この減少傾向に終止符を打ち令和2年度入学者は3名増加することが出来ました。入学生確保の基本は、高等学校との信頼関係が重要であると考えている。お陰様で近隣高等学校との信頼関係は、着実に構築できており、今後は、そのエリアをどうすれば拡大できるのかが課題となっている。その為、本校の誠実な学校運営並びに教育の特色と実績を多くの高校生・保護者の方々に伝えていきたい。尚、次年度の学生募集活動は既に開始されており、途中経過ではあるがグループ校からの入学者も大幅に増加することが見込まれ、近隣校からも本校を希望する生がいると高校の先生からの情報もあり、次年度は入学者減少に歯止めがかかり、入学者を増加に転じることが出来ると考えている。

教育環境の整備では、車両購入・整備機器の補充し年々施設設備の充実を継続的に図っている。教育内容の向上を狙い、総授業時間の60%の実習授業を、15人程度の学生に1名の教員が授業を行う徹底した少人数での実習授業を行うこと基本とした。その結果、本校の教育特色である「少人数グループ制教育」に大多数の学生達は満足し、意欲的に勉学に励んでいる。また、自動車整備業界との連携を強化し、本校独自の「企業インターンシップ」(一級自動車整備科と自動車整備科両科の一年生全員対象とする企業研修)も実施することが出来た。

結びに、今後乗り越えて行かなければならない多くの課題もあり、更なる努力が必要である。特に、高等教育無償化対象校の機関要件を満たす学園運営を継続し、職業実践専門課程への認可も早急に取得していかなければならない。

まずは、令和2年度の重点目標を達成し、本校が地域社会から必要とされ、生き残っていくための強固な運営基盤の構築を目指し総合評価結果といたします。